

高等学校 令和7年度

教科 地理歴史 科目 地理総合

教科：地理歴史 科目：地理総合

単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 A組～E組

教科担当者：

使用教科書：（高等学校 新地理総合（帝国書院））

使用教材：（標準高等地図（帝国書院））

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して調査される社会課題としての自覚、我が国が国際社会や地域に対する責務、他国や他地域の文化を尊重することの大切さについての自覚などを養める。

科目 地理総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
知識：地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。 技能：地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学 期	媒体としての地図、時空と生活、おもな国語による世界地図の活用を理解する。表面上の正しい方位や時刻、記法によって異なる世界地図の特色を理解し、以降の学習の基盤を築くとともに、日常生活で活用する力を身につける。 国家の3要素や領域のなりたち、領域における海洋の役割、日本と周辺諸国との間の領有権問題について理解する。国境や領土問題が国際関係、人々の生活におよぼす影響を考察する。	1章 地図とGISの活用 1節 球面上の世界 2節 国家の領域と領土問題	知：地球を球面として捉え、球面上の位置・方位・距離について正しく認識し、季節・気候を生み出すことを理解している。 思：日本の位置と領域について世界的視野から捉え、日本の領域をめぐる問題を考察し、まとめることができる。 学：世界の自然的国境や人為的国境を調べ、自ら白地図にまとめている。	○	○	○	12	
	定期考查			○	○		1	
	外国で暮らす日本人を題材として、日本と諸外国との関係を理解する。国家間の結びつきを地域経済圏や国際連合を通して考察する。観光、交通・通信、貿易、物流の視点から、人や物、資本・サービス、情報の国際的な移動のようすを理解する。さまざまな統計地図や統計資料を分析し、表現する地理的技能を養う。	3節 国内や日本人間の結びつき	知：外国で暮らす日本人や歴史的背景を通して、日本と諸外国との関係を理解している。 思：交通や通信の発達による変化について分析し、国家間・地域間の格差について考察している。 学：階級区分図などの統計地図を自ら課題を設定して作成し、多面的・多角的に考察しようとしている。	○	○		12	
	定期考查				○	○		1
2 学 期	世界地図ソフトや地理情報地図などのGISソフトウェアを利用して地理空間情報を扱い、表現する技能を養う。 世界的な視野から地球上の起伏の分布がプレートテクトニクスなどをつくづくプレート境界に関連していることを捉える。また、河川がつくる地形や海岸部の地形、それらの地形を活かした暮らしの地形を学習し、考察する技能を身につける。 世界の言語・宗教の特徴と分布、生活文化との関係を考える。その地域の環境や歴史的背景から地域的特色を理解する。	4節 日常生活のさまざまな地図 2章 生活文化の多様性と国際理解 1節 自然環境と生活文化 2節 産業の発展と生活文化	知：ケッペンの気候区分と植生分布の関連性を理解し、自然環境が人々の生活文化や産業、伝統の形成などに深く関わり、また諸要素が相互に関連しあっていることを理解している。 思：世界の産業の特徴を地域ごとに比較し、自然環境や生活文化との関連性を考察している。 学：身の回りのさまざまな地図に興味を持ち、積極的に活用しようとする。	○	○	○	13	
	定期考查			○	○		1	
	国との統合による産業や生活文化への影響。そして統合によって生じている経済格差や移民問題などの諸問題を理解し、ヨーロッパ圏の国家としての在り方の変容、EUと日本のつながりについて考察する。 世界人口の急増によって生じている問題を世界的視野から理解し、人口と多文化や主権国などの資料から問題の所在と解決のための取り組みを考察する。 都市に人口が集中する要因を主題図や統計資料から読み取るとともに、人口集中によって引き起こされる都市問題についても写真などから判断する。	3節 言語・宗教と生活文化 4節 グローバル化の進展と生活文化 3章 地球的課題と国際協力 1節 人口・食料問題 2節 居住・都市問題	知：現代世界における言語・宗教の変容について、主題図や写真などの資料から読み取ることができる。 思：ヨーロッパ各国の国家としてのあり方の変容、EUと日本のつながりからグローバル化の功罪について考察している。 学：途上国や先進国の都市問題を事例として挙げて、先進的な都市政策を参考にしながら、主体的に課題解決策を構想している。	○	○	○	13	
	定期考查				○	○		1
3 学 期	異なる半質・資源の変化を世界的な視野から捉え、主題図や統計資料から資源の偏在性、有効性、そして消費における地域格差などの諸課題を読み取る。 地球温暖化・森林減少・砂漠化など、地球規模で発生している環境問題の仕組みを構造的に理解する。 日本列島の地形や気候のなごりなど多様性について、主題図やグラフ、写真などの資料から理解する。また、日本列島では自然による恩恵だけでなく、さまざまな自然災害が生ずることを世界的な視野から捉え、その要因と特徴、災害の地域性、防災や被災への取り組みや課題を考察する。	3節 資源・エネルギー問題 4節 地球環境問題 4章 生活圏の諸課題 1節 自然環境と防災 2節 持続可能な地域づくり	知：地球温暖化・熱帯林減少・砂漠化など、地球規模でおこっている環境問題のしくみを構造的に理解できる。 思：世界の災害を日本と比較しながら捉え、人口密度や社会的基盤の脆弱性等の社会環境によって、被害が大きくなることを考察できる。 学：身近な地域にさまざまな魅力や課題があることを見出し、意欲的に地域調査に取り組んでいる。	○	○		15	
	定期考查			○	○		1	
								1
								70